

第3回大井町総合計画審議会 概要

日 時：平成22年4月27日（火）
午前9時～午前11時20分
場 所：役場301会議室

出席者：熊沢清会長、植松清治会長職務代理、大澤一良委員、石井勲委員、橋本淑子委員、
石原昭平委員、風間秀泰委員、川口彪委員、宇多澄子委員、石井律子委員、瀬戸二郎委員、
石井孝典委員、足立隆充委員

欠席者：小関哲哉委員

事務局：神保政義企画財政課長、湯川博之副主幹、立川悟主任主事

1 開会

熊沢会長より開会のあいさつ

2 議題

(1) 大井町第5次総合計画骨子素案について

<事務局より第5次総合計画骨子素案について資料2、資料3により説明>

【意見・質疑】

- 「協働によるまちづくり」には賛成である。町民が積極的にまちづくりに参加していくことが必要だが、具体的にどういったものを想定しているのかが明確になっていないのでは。自治会が中心となるのは当然だが、協議会的な核となる組織が必要ではないか。他での取り組みを参考にしながら具体的な取り組みを掲示してはどうか。
- 自治会に対する町民の認識や理解が不足している。義務と役割があって、サービスがあるという事について記述する必要があるのでは。
- 最近、農業では気候変動による不作ということがあり、農家の方はそのことへの不安感がある。気候が安定していないことを考えると、その対応を検討する必要があるのでは。
- 最近の野菜の高騰にあるように、異常気象になっている。大井町は農業をするのに条件が良いところである。地域農業の面からまとめた方がよい。
- 環境問題、特に温暖化対策について、自治体によって対応が異なる。例えば、太陽光発電の設置補助制度等について違っている。自動車もガソリン車から電気自動車、燃料電池自動車の時代になっている。県庁の玄関には電気自動車の充電スタンドがある。町としても、地球温暖化や環境保全に繋がることを具体的に掲げてはどうか。また、金子吉原地区の区画整理の具体化が必要と考える。商業の活性化を含めた中での検討をしてほしい。
- 区画整理の話と関係して酒匂川2号橋の現況は。
→ 県の事業により、平成26年度を目途に開通する予定。そして、その先の国道255号までの延伸がインターチェンジへの接続を考えると利便性があり、県に要望してきたことで、県も「かなが

わのみちづくり計画」に位置付ける方向となった。道路整備の確定ではないが、一步前進した。いつからかという具体的なものは不透明ではあるが明るい話題。財政的にも多大であり、町単独では困難なため、県での整備をお願いしているところ。

- 子どもを取り巻く環境はハード面で充実してきている。放課後コミュニティクラブが上大井にもでき、預かれる子どもが増えて助かっているという声を聞く。年々、子ども会に入らない人が増えている。理由として役員をすることの負担感やスポーツ、習い事をさせているため子ども会に入らなくても困らないとの意見が多い。意識の問題がある。
- 人づくりや教育が土台にあるというのは結構なことと考える。町の小・中学校に通わせるということは、地域に子どもたちを取り込んでいくということ。そのためには、環境問題や地域に絡めていくことが良いのでは。湘光中学校では、「おおいゆめの里」で下草刈りに取り組んでいると聞く。このようなことにもっと取り組んでいくと良い。環境問題に対しては、家庭のごみ問題など身近な取り組みはあったが、地球温暖化の問題などは、専門的なことのわかる人材が必要。町内には多くの知識や経験、資格のある人がいる。そのような人の把握をする必要があるのでは。そのような人を把握して取り込んで事業を進めていけば大きな成果を得られるのではないかと。骨子素案の25頁の「②情報教育の推進」とはどのような取り組みか。
→ 第4次総合計画期間では情報教育のための機器充実に取り組んできた。それが一段落したので、その次の段階としてインターネットの利用など情報モラルの教育に取り組むことを考えている。
- 同じ頁で「①教育活動の充実」では「確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成」とあるが、コミュニケーションを取るための「思いやりの心」というのが必要では。かつての道徳についてもう少し教えていく必要があるのではないかと。
- 具体的なものは実施計画になるのだろうが、重要なものは記述する必要がある。昨年のアンケート調査では信号・カーブミラーの設置要望が1位であった。そのような取り組みの記述がない。町内は歩道が十分でなく、車と人が分離されていない。重点的に整備する必要があるのでは。湘光中の前は酒匂堰の改修によって良い歩道ができています。せせらぎづくりの散策路ができ縦貫道付近は歩いている人が多くなっているが、全体として繋がっていない。場所によっては一方通行にする箇所を設けるなどの対策が必要では。道路計画とあわせて長期的な視点から整備を進めていく必要がある。また、環境に配慮したまちづくりと関連して、平坦部は自転車を通れるサイクリングロード整備などを長期的に進めていく必要もある。10年の計画のまちづくりの目標に入れ込んでほしい。骨子素案の1頁の「まちづくりの目標」や5頁の「重点分野」では交通安全施設について触れていない。区画整理については人口増加のためにも進めていく必要がある。役場前から松田国府津線まで抜ける道が御殿場線との交差でネックとなっているので、長期的に見て、立体交差にするなど改善をしないと区画整理をしても効果がない。農業については、専業農家のなり手がなく、耕作面積の少ない人が増えている。米作農家は委託している人が増えている。育苗センターはあるが、コンバインから乾燥機まで揃えるのは兼業農家には負担が重く、ライスセンターがあれば大型化が進むので、そのような計画をもつ必要があるのでは。最近では農業への参入希望者がいるようだが、そのためにも基盤整備について総合計画に記述する必要があるのではないかと。
- 協働というのは最近の自治体がどこでも取り組む傾向にある。自治会については原則として加入というのが自治基本条例にある。他の自治体では任意加入だが大井町では原則が入ったということを理解する必要がある。その原点となる子ども会についても再認識する必要があるのではないかと。都市計画道路「金子開成和田河原線」が県の計画に位置付けられる方向となったのは、これまでの町の投資的な取り組みが大きな要因であると認識している。この道路と同時に区画整理を含めたまちの核づくり構想として現在の庁舎等もここに建っている。平成26年までに区画整理は結論を得るとなっている。

るが、できなければ事業を中止するくらいの気持ちで、是非実現をしてほしい。また、酒匂川縦貫道路は今年開通する。これからできる道についての活用を考えるのも重要だが、現在ある道の沿線の活用も検討する必要がある。

- 目標人口18,000人を目指すなら区画整理や相和構想が必要となる。果たしてこの数値を掲げて良いのか。広域消防の話が出てきているが、火を消すことだけでなく、救急のことも問題となっている。大井町は南足柄市から見ると、川音川と酒匂川で区切られているため、交通止となれば、小田原方面からしかなく、小田原との協力が不可欠となる。いこいの里・相和構想やせせらぎづくりについて記述が出てこないが、方向転換していくのかどうか、説明ができるようにしなければいけないのではないかな。
- 子どもを地域に取り込むことは子どもも親の意識についても道徳なりの教育が必要。子どもが一定の年齢になる前に地域に取り込んでいくことが重要ではないか。大井町は早くから乳幼児の支援センターを立ち上げているが、この5年程度で親の育児力が大きく変化してきているように感じる。8頁の「①人材の育成と発掘」はすばらしい取り組み。町内の様々な技術を持った方を教育や学習に活かすことができれば良いのではないかな。
- 7頁に「②町民ニーズの把握」とあるが、町政懇話会など参加者が少ない。もっと人が集まるような工夫が必要ではないか。産業立地についての記述があるが、企業誘致の場所としてNECと大井高校の間が立地可能で、他を選択する場合は、事前に農業振興地域整備計画との整合性を図っていく必要がある。相和地区では農業基盤整備と居住環境の整備を進めていく。特に居住環境の整備への期待は大きいと感じる。もし、事業を見送ることになるのであれば、早めに地域に対して話していくべき。「おおいゆめの里」ではビジターセンターを建て、観光農業を進めていくとのことだが、広域的な観光ルートの設定など、行政間の連携が重要。
- 相和地域での事業については、どのようにしていくのか明確に町としての狙いが伝わるような表現を検討してほしい。
- 後継者問題を含めた担い手不足を考えれば、この5年程度が節目となる。地域内での農地の貸し借りは困難だが、農地をいかに保全していくかが重要と考える。
- 安全・安心についての記述を見るとソフトだけのように見える。自然環境の保全の面では、大井町は眺望も良いので、人口流入の可能性は高い。高層ビルなどがあっては美観を損なう。また、安全・安心について片側通行の幹線道路があるなど、災害面から狭あい道路の整備や水害の危険性が顕在化しているところなど、整備が必要な箇所もあるのではないかな。自治会未加入については新しい人が増え、集合住宅に住む人が多くなったことも一因ではないかな。また、これからは少子高齢化を念頭に置く必要がある。これまで以上に自治会が様々な役割を担っていくことが重要となる。そのためにも団塊世代など、地域の人が活躍するための人材バンクは是非とも必要ではないかな。
- 10年以上前からいこいの里・相和構想はあるが、進展していない。公園整備はボランティアで行っているが、計画が良くなく、あれではお客が来ない。もっと研究する必要がある。他と同じ事をやってもお客は来ない。他の桜を植えるなど、違うことをする計画が必要である。相和地区では農家が減ってきていて荒れ地が増えているので、体験農業などは更に取り組んでほしい。相和小学校は児童数100人を割っている。平坦部の子どもたちに通ってきてもらうのも一つの考え。最近では親の教育がうまくいっていない。親を教育していく必要があるが、それは学校ではなく地域の役目ではないかな。第一生命が撤退することに伴い、バスの廃止が見込まれているが、そのことについて、良く検討してほしい。

○ 上大井から松田までのハイキングルートは富士山も見え、良いルートとなっている。もっとその点を大きく書いてはどうか。現在の骨子素案では全体としてボヤッとしている面がある。酒匂川2号橋から国道255号までの都市計画道路についてもっと入れ込んだ方がよい。トーヨーボールの跡地も先が見えてきたことも朗報である。これまで継続して取り組んできているハードについては明確に打ち出すべき。

(2) その他

事務局より今後の審議の流れについて資料4により説明した。また、次回の審議会を6月7日(月)に開催することを確認した。

以 上